

新着案内

NO. 2
2021年7月
伊丹西高校図書館



『ドキュメント』(湊 かなえ)

圭祐たち放送部は、全国大会を目指してドキュメント作品を作りはじめるが、思わぬ人物の予期せぬ姿が撮影される。誰が仕組んだ罠なのか？ 湊かなえがおくる高校部活小説。

『臨床の砦』(夏川 草介)

この戦、負けますね。「神様のカルテ」著者によるドキュメント小説。命がけてコロナに立ち向かった小さな病院の知られざる物語を描き出す。



『琥珀の夏』(辻村 深月)

かつてカルト集団として批判された団体の敷地から子どもの白骨が発見された。弁護士の法子は、遺体は自分の知る少女ではないかと胸騒ぎを覚える。30年前の記憶が蘇り、忘れて大人になった者と取り残された者はやがて法廷へ。

『雷神』(道尾 秀介)

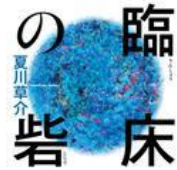
どんでん返しの先に待つ衝撃のラスト。道尾ミステリ史上、最強の破壊力！ ある一本の電話が引き金となり、故郷へ赴くこととなった幸人。しかし、それは新たな悲劇の幕開けに過ぎなかった。村の祭が行われたあの日。一筋の雷撃がもたらした、惨劇の真相と手紙の謎。父が遺した写真。そして、再び殺意の渦中へ身を置く幸人たちを待ち受ける未来とは、一体。

『風よあらしよ』(村山 由佳)

【第55回吉川英治文学賞受賞】

【本の雑誌が選ぶ2020年度ベスト10 第1位】

明治・大正を駆け抜けた、アナキストで婦人解放運動家の伊藤野枝。生涯で三人の男と〈結婚〉、七人の子を産み、関東大震災後に憲兵隊の甘粕正彦らの手により虐殺される。その短くも熱情にあふれた人生が、野枝自身、そして二番目の夫でダダイストの辻潤、三番目の夫でかけがえのない同志・大杉栄、野枝を『青鞥』に招き入れた平塚らいてう、四角関係の果てに大杉を刺した神近市子らの眼差しを通して、鮮やかによみがえる。著者渾身の大作。



『朽ちないサクラ』(柚月 裕子)

所轄署が被害届の受理を延ばし、慰安旅行に出かけた末にストーカー殺人を防げなかったと新聞にスクープされる。県警広報事務の森口泉は、親友の新聞記者が裏切って記事にしたのではと疑うが、その彼女が殺される。



『もしも徳川家康が総理大臣になったらビジネス小説』(眞邊 明人)

コロナを収束させ、信頼を取り戻せ！ 2020年、AIとプログラム技術で復活した偉人たちが構成された徳川内閣に課せられたミッション。果たして最強内閣は、日本を救えるのか？ 教養溢れる新感覚エンターテインメント。



『合唱 岬洋介の帰還』(中山 七里)

取り調べ中に殺人を起こしたとして、検事・天生が逮捕された。親友のピアニスト・岬洋介は、絶体絶命の天生を救うことができるのか？「音楽ミステリー」シリーズ。中山七里全56作品の「人物相関図」付き。



『薔薇のなかの蛇』(恩田 陸)

英国へ留学中のリセ・ミズノは、友人から薔薇をかたどった館のパーティに招かれる。そこには経済や政治に大きな影響力を持つ貴族・レミントン一家が住んでいた。折しもその近くでは、首と胴体が切断された遺体が見つかり「祭壇殺人事件」と名付けられた謎めいた事件が起きていた。このパーティで一族に伝わる秘宝を披露するのでは、と招待客が囁く中、悲劇が訪れる。



『月とコーヒー』(吉田 篤弘)

喫茶店〈ゴゴリ〉の甘くないケーキ。世界の果てのコインランドリーに通うトカゲ男。映写技師にサンドイッチを届ける夜の配達人。トランプから抜け出してきたジョーカー。赤い林檎に囲まれて青いインクをつくる青年。三人の年老いた泥棒。空から落ちてきた天使。終わりの風景が見える眼鏡。忘れられたものと、世の中の隅の方にいる人たちのお話。



※ 皆さんからのリクエストを受け付けています！



『神様に一番近い動物 人生を変える7つの物語』(水野 敬也)

牧場で平和な生活を送っていた子牛の耳元でネズミがささやいた。「お前はこれから革ジャンになるんだよ」。表題作をはじめ、全く違う面白さが味わえる7つの物語を収録。

『コンビニたそがれ堂異聞 千夜一夜』(村山 早紀)

風早神社の娘・沙也加は願う。この街に穏やかな暮らしが戻りますように。探しものが見つかる不思議なコンビニ「たそがれ堂」。深い癒しを贈る、シリーズ特別編。切り取って使う栞付き。



『神の悪手』(芦沢 央)

破滅するとしても、この先の世界が見たい。将棋に魅せられた者たちの苛烈な運命。棋士の養成機関である奨励会。年齢制限による退会が迫る中でも昇段の目がない岩城啓一は、三段リーグ戦前夜、対戦相手からある“戦略”を持ちかけられる。

『ヴィンテージガール 仕立屋探偵桐ヶ谷京介』(川瀬 七緒)

東京で仕立て屋を営む桐ヶ谷京介は、美術解剖学と服飾の知識によって、服を見ればその人の受けた暴力や病気などまでわかる特殊な能力を身につけていた。ある日偶然テレビの公開捜査番組を目にする。10年前に起きた少女殺害事件で、犯人はおろか少女の身元さえわかっていない。遺留品の奇妙な柄のワンピースが京介の心を捉える。



『科警研のホームズ 1』(喜多 喜久)

科学警察研究所・本郷分室にやってきた三人の研修生たちは、科警研の仕事に興味を示さない室長・土屋の態度に困惑する。かつての彼は科警研の研究室長を務め、鋭い洞察力と推理の切れ味で、警察関係者から「科警研のホームズ」と称されていたらしい。自分たちの成長のため、三人だけで事件の調査に邁進する研修生たち。しかし、彼らが行き詰まったとき、土屋のホームズばりの頭脳が目まぐるしく動き出す！



『あやかしお宿の十二ヶ月。』(友麻 碧)

『薬屋のひとりごと 11』(日向 夏)

新着案内

～社会科学～

『あなたを閉じこめる「ずるい言葉」 10代から知っておきたい』(森山 至貴)
「あなたのためを思って」「悪気はないんだから」。“カクレ悪意”や“カンチガイ善意”を見抜け！大人より弱い立場にある子どもが、「ずるい言葉」にだまされないようにするためのヒントを伝える。

『「カッコいい」とは何か』(平野 啓一郎)
「カッコいい」は人間にポジティブな活動を促す大きな力。「カッコいい」を考えることは、いかに生きるべきかを考えること。一見単純でありながら、複雑な概念「カッコいい」について、多角的に論じる。

『たったひとつの「真実」なんてないメディアは何を伝えているのか？』(森 達也)
ニュースや新聞は間違えないという思い込みは捨てよう。でも、嘘ばかりというのも間違い。メディアはすべて、事実と嘘の境界線上にある。私たちに不可欠となっているメディアを正しく使う方法を考える。

～自然科学～

『算数・数学で何ができるの？ 算数と数学の基本がわかる図鑑』(ドーリング・キンダーズリー社)
負の数はどうやってできた？ピラミッドはどうやって測ったの？素数ってどんなことに使われているの？数学の考えや数学にかかわる発明の誕生、利用法などを、イラストや図とともに紹介する。

『雲の中では何が起きているのか 雲をつかもうとしている話』(荒木 健太郎)
雲ができる仕組み、竜巻やゲリラ豪雨などの気象災害をもたらす雲の中で起きていること、雲と気候変動との関係。雲の仕組みの研究者が、雲の楽しみ方をあますところなく伝える。

『アリエナクナイ科学ノ教科書 1 空想設定を読み解く31講』(くられ)
【第49回星雲賞ノンフィクション部門受賞】デジタル不老不死、ネコミミ娘、タイムマシン。フィクションに登場しがちなさまざまなテーマを「ヒト」「驚異・怪異」「テクノロジー」「環境・設定」に分類し、科学視点で解説する。

～芸術～

『黄昏』(水口 博也)
黄金に輝く海と大地、夕陽をうけて炎のように燃える野生動物たちの息吹き。一日の終わり、魔法のように光が移ろいゆく中でシャッターを切り、考えたこと。ネイチャーフォートの第一人者によるマジカルな瞬間と紀行エッセイ。

『描きたい!! を信じる 少年ジャンプがどうしても伝えたいマンガの描き方』(集英社)
漫画を描くときに必ず出てくる疑問から練習法、描けない時の壁の超え方などから、ジャンプの大ヒット漫画家たちの描きおろしネームやアンケートを大ボリュームで収録！

『見えないスポーツ図鑑』(伊藤 亜紗)
「視覚障害者にスポーツの臨場感をどう伝えるか」から始まった研究は、スポーツを“翻訳”することに向かった。アスリートの感覚や競技のエッセンスを、日用品を使った動作に“翻訳”するプロジェクトの成果を紹介する。

～その他～

『多分そいつ、今ごろパフェとか食ってるよ。 続 孤独も悪くない編』(Jam)
友だちがいるのに寂しい、どこにも居場所がない、ちょっとしたことで落ち込む。孤独や不安な気持ちと上手につき合う68の考え方を、ネコの4コママンガとともに紹介します。不安な気持ちと上手につき合う68の考え方。『多分そいつ、今ごろパフェとか食ってるよ。』待望の続編。

『よけいなひと言を好かれるセリフに変える言いかえ図鑑』(大野 萌子)
ポジティブなコミュニケーションのコツが身につくと、好感、好印象を与えるようになって、信頼関係を築けるようになる。「よけいなひと言」を「好かれるセリフ」に言いかえるパターンを141例紹介。

～キミも英語多読に挑戦しよう！～

★多読とは？
やさしすぎるくらいの本から始めて、読む楽しさを味わいながら、とにかくたくさんの本を読むことで、英文が読めるようになります。ゆっくりでもいいので、すこしずつ始めていきましょう。

『Where Is the Bermuda Triangle?』(Megan Stine)
Who doesn't love a great mystery? This book presents the eerie accidents and unexplained disappearances that have occurred in the region known as the Bermuda Triangle.
世界の名所を紹介する読み物シリーズ。

『Who Was Galileo?』(Patricia Brennan Demuth)
Like Michelangelo, Galileo is another Renaissance great known just by his first name--a name that is synonymous with scientific achievement.
世界各国の偉人について学ぶ伝記シリーズ。